

# CAGLIERO

カリエロ11 サレジオ会  
宣教ニュース

N.124 - 2019年4月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

## 親

なる会員、友人の皆さん、

私たちは主の復活の祝いに向かって歩んでいますが、真福八端を再びささやく教皇フランシスコの言葉を聞きましょう：

「涙を流す人々は幸いである、その人たちは慰められる。」

「人とともに涙が流せること、それが聖であるということです。」（『喜びに喜べ』76）

これこそ、まさにサレジオの宣教師がしてきたこと、そして今もしていることです。

宣教師たちは涙を流すことができました。サレジオ宣教の日2017のテーマが言うように、「彼らは私たちのもとにとどまった」からです。宣教師たちはとどまり、アマゾンの多くの少数民族の人々とともに涙を流しました - イエスを多くの人々のもとにお連れし、救いをもたらしました。シエラレオネでエボラ出血熱が蔓延したとき（2012年）、サレジオの宣教師たちはとどまり、人々とともに泣きました - 彼らは多くのいのちを救うことができました。今日、パラベク難民キャンプ（ウガンダ）の小屋の中で、サレジオ会宣教師が独り、涙を流しています。最も小さく、見捨てられた人々の極限の苦しみを目の当たりにして、「悪を行う者は……パンを食らうかのようにわたしの民を食らう」と詩編作者は言います。

したがってサレジオの宣教師は、まだ福音を宣べ伝えられていない人々の悩みと希望を分かちあい（会憲第30条参照）、「問題や苦悩を分かち合いながら、彼らのために聖霊の光と聖霊の現存がもたらす力を祈り求める」（会憲題95条）のです。

他者とともに、特に苦しむ若者とともに涙を流せるということ - それは宣教師の心、サレジオの心の表れなのです。



宣教顧問 ギジェルモ・バサニエス神父

## 第一次福音宣教・アンゴラで



3月2日から5日にかけて、アンゴラのサレジオ家族の各宣教グループは、サレジアン・シスターズとサレジオ会がアニメーターとなり、イエス・キリストを告げる第一次福音宣教についての研修会をルアンダで開催した。これは、昨年ヨハネスブルクで行われた同じテーマの研修会（2018年8月13-19日）に続くもの。

研修会の中心は、新たな道や方法の模索、そして私たちの小教区、キリスト者小共同体、小学校、中等学校、職業訓練校、大学、社会福祉事業、オラトリオ、ユースセンターで、そして広報を通して出会う多くの人々を主のもとにお連れするための、新たな力と熱意を呼び覚ますことだった。

私たちが前にする大きな挑戦は、主から遠く、キリスト者

共同体から遠いところにいる人々と出会うため近づくこと。離れてしまった人々、あるいは信仰の火を徐々に失ってしまった人々に、活力を回復させ、信仰の火を取り戻させなければならない。私たちの宣教活動のさまざまな部門が主のまことの宣教の道具となるにはどうすればよいのか、私たちは自問しなければならぬ。キリスト者の、共同体生活の、愛と喜びのあかしを通して、さまざまな部門は、イエスという方とその神秘に魅了される心を、どのように目覚めさせることができるだろうか。どうすればイエスを告げることができるだろうか。

サレジオ会員、サレジアン・シスターズ、宣教のアニメーター、司牧奉仕者たちが国中から集まり、「第一次福音宣教とサレジオのミッション」というテーマを振りかえった。このような研修会は、宣教の中心にまなざしを注ぎ続ける手段の一つとして、ほかの多くの管区でも、さまざまな文化的背景のもと行われている。宣教の中心とは、イエス・キリストを告げ知らせることである！

## サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ビエルルイジ・カメローニ神父



神の僕アントニエタ・ボーム（1907 - 2008）

サレジアン・シスター、ドイツ出身、ラテン・アメリカの宣教師。シスター・アントニエタは、ラウラ・ビクーニャの記憶に満ちた場所に暮らす幸運に恵まれ、1988年、コッレ・ドンボスコで行われたラウラの列福式に参列した。また、サレジオ会修道士、福者アルテミデ・ザッティとも出会っている。1973年、シスター・エルシリア・クルニョーラから小さな聖母像を贈られ、その像を用いてマリアのみ名によって人々を祝福するよう勧められた。後にマドレ・アントニエタは語っている：「最初の祝福から今に至るまで、聖母は昼も夜も働いてくださいました。こうして聖母のみわざは、郵便、ファックス、メールを通して続き、メキシコやそのほか世界中の多くの場所に届くのです。」

# 若者と人生を分かち合うことは、宣教師としての生き甲斐を深く満たしてくれる



## 子

どもの頃の二つのことが、宣教師の道へと私を促す要因になりました。一つは父のことです。父は結婚する前、アフリカのガーナで建設現場の監督として4年間働きました。父の話や「黒人の人たち」の写真に、私はとても魅了されました。二つ目は、大人になった頃、海で事故にあったことです。私は潮の流れに巻き込まれ、もう少しで溺れるところでした。いのちが助かったのは、ただ神の恵みによってでした。二回目のいのちを頂いたのです。私はこのことを、何か使命を果たすための神の招きとして受けとめました。ちょうどその頃、私は家族の中で守られすぎていることに目覚め、確かな方向性もないまま、家を出ていました。

海での事故にあつて間もない頃、パプアニューギニアのサレジオ会が機械工学を教える人材を探していると知りました。私は求められている機械工学の要件を備えていました。私はスイスのボランティア団体を通して奉仕を志願しました。パプアニューギニアの首都、ポートモレスビーのドン・ボスコ技術専門学校で3年間働きました。間もなく、自分の工学の知識や専門的スキルを分かち合うだけでは十分でないと感じました。若者とともに歩むアシステンツァが、私にとってますます重要になりました。私のお手本は、サレジオ会員、サレジアン・シスターズ、一緒に働く志願者たちでした。

私はスイスに帰り、金属製作の会社でプロジェクト・リーダーとして働き始めましたが、満たされないのを感じました。若者たちがいないのを寂しく感じました。自分の利益や幸せだけを求めてキャリアを築くことに、もはや興味がなくなっていました。私は再びサレジオ会を訪ねました。カトリックでなかったにもかかわらず、志願生になることを許されました。私はカトリックに改宗しました。すでに修練期の頃、修道士の召し出しを感じました - 実習室や教室、寮で若者たちとともにいること。良き主は、この道に向けてさらに導いてくださいました。宣教の体験は、養成の間ずっと私とともにありました。

終生誓願を立てた後、管区長ヨセフ・グリュンナー神父は、一時的にパプアニューギニアに戻ることを許してくれました。

パプアニューギニアで、宣教師になりたいという気持ちはますます強くなり、2016年、私はad vitam生涯をささげる宣教師になるため、総長の呼びかけに従いました。このときもまた、良き主はパプアニューギニアへ戻れるようにしてくださいました。

私は5年の任期でドン・ボスコ技術専門学校に派遣されています。かつてボランティアとして働いた、同じところですよ。私の主な仕事は、機械取り付けと溶接の技術教育です。教育者・司牧者としてのこの多くを要求される仕事に代わり、良い気分転換になるのは、日曜日のオラトリオです。周囲の村々に住み恵まれない子ども、若者たちと生活を分かち合うことは私を深く満たし、宣教師としてのアイデンティティーを強めてくれます。

私はサレジオ会修道士として、とても幸せです。教室、実習室、オラトリオで、若者たちのただ中にいます。放課後も、生徒や子どもたちと過ごします。このようにいつも一緒にいることで、信頼と愛の絆が生まれてきました。子ども・若者たちの私への信頼が大きくなりました。彼らは心を開いてくれます。修道士としての私の生き方に興味を持つようになります。こうして、キリスト者としての自分の価値観を分かち合い、良い行動、他者の尊敬、人の尊厳、愛などを促進する機会が与えられます。全人的人格形成が起きているのです。それは、ともに過ごす時間をはるかに超えて残るものになるでしょう。

振り返って見たとき、宣教師にとって最も大事なことは、心を開き、謙遜であることだと思います。神に耳を傾け、聖霊に導いていただかなかつたら、私はサレジオ会員にも、修道士にも、宣教師にもならなかつたでしょう。

スイス出身、パプアニューギニアの宣教師 レト・ワンナー



## サレジオ会の宣教の意向

### 社会福祉事業を通して、 人の全人的向上を目指して働く人々のために

医師、看護師、社会福祉の担い手、心理士など、私たちの診療所や社会福祉事業でともに働く多くの人々のために：私たちにゆだねられた人々の全人的向上のための働きに、主が報いてくださいますように。

福者アルテミデ・ザッティ、尊者シモン・スルジ、そのほか多くの会員、協働者が、子どもや貧しい人々の体と基本的な必要の世話をすることによって、愛の福音を実践しました。社会福祉事業に献身する人々のために祈りましょう：主がその献身を支えてくださいますように。小さな人々に惜しみなく仕え、キリストの愛から力と動機を汲むことができますように。

